

活動報告書

報告者氏名：梅原篤 所属：東京都立墨東特別支援学校 記録日：2013年2月26日

【対象児（群）の情報】

・学年 高等部1年

・障害名 四肢体幹機能障害、知的障害

・障害と困難の内容

両上肢の筋緊張が低く、腕を重力に抗して自由に動かすことが難しい。また動かそうと思ったときに動かないときがある。右手は粗大な運動ではあるが随意的に動かせることが多く、左手は指先の小さな運動が見られるが随意的に動かせることが少なかった。また発声も意図してできるときもあれば、気持ちがあっても上手く声にならないときがある。言葉の理解では、繰り返しではないストーリーの本を楽しむことができる。写真を認識することはできるが、文字から示している内容を理解する力はまだ獲得できていない。

自分の考えを、「あっ」という発声や右手でスイッチを押す、目を見開いて視線を合わせる、などの方法で伝えている。しかし表情や事前の情報をもとに大人が判断することが多く、気持ちが伝わらないことがある。また、伝わらないことで怒ったり、泣いたりすることもあり、そうすると緊張が入りうまく返答ができなくなってしまう。

【活動目的】

・当初のねらい

誰にでも分かるコミュニケーション方法を確立することを目的として指導を行なった。そして本人の成長に合わせて変更でき、持ち歩ける、ホームヘルパー等にも親しみやすい機器として iPad を使用することが有効と考えた。さらにメッセージメイト、改造した音楽再生機器等、多様な機器の機能を iPad に集約し、学校以外での活動を保障することにも配慮した。

・実施期間

平成24年7月2日から平成25年2月27日 2校時目「自立活動」（個別学習）の時間を中心に取り組んだ。

・実施者

梅原篤（特別支援学校 教諭）

・実施者と対象児の関係

担任と生徒

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

右手で1つのスイッチを使った操作は意図的にできていた。また意思表示をしたいが、声が思うように出ないときに右手を動かすことがあった。左手は意図的に動かしている場面が少なく、2つのスイッチで選択と決定をするという課題は難しいようにも思えたが、左手の動きがよく見られるようになってきていた。

・活動の具体的内容

左手で次の候補の選択、右手で候補の決定という操作で、①好きな動画の選択、②絵カード・写真の選択学習課題、③文化祭の劇発表における台詞の発声を行なった。

①好きな動画の選択：アプリ「iWorkNote」を使用。画面中央に動画を1つ貼り付け、画面右下に次のページに進むボタン（ソフト上）を設定。動画の最初の部分の静止画像を見て、その動画が見たければ再生、見たくなければ次の候補を選択する。6つの画像で好きな画像とそうでない画像を用意した。入力装置は右手側にビックマックをスイッチとして、iPad タッチャーと 3.5mm ケーブルで接続。iPad タッチャーの反対側を画面の画像の上に貼り付けた。左手側は棒スイッチを iPad タッチャーに接続。iPad タッチャーの反対側は画面の次のページに進むボタンの上に貼り付けた。

②③アプリ「Soundingborad」を使用。右手側にビックマックをスイッチとして使用し、左手側は棒スイッチを使用。スイッチインタフェイスは 3.5mm のジャックが接続できるように改造した3つスイッチのフットスイッチの2つのスイッチを使用。フットスイッチの USB 接続を変換プラグで iPad と接続した。

・対象児（群）の事後の変化

好きな動画選択の課題では、左手で次の候補の選択、右手で候補の決定という操作を覚えて、ほぼ確実にできるようになった。また、それにともなって左手を随意的に動かす能力が向上した。表示された静止画が好きなものでなければ左手を動かす操作であるので、他の課題でも「No」「終わり」などの表現をする場合に左手を動かすように指導した。どんな場面でも使える手段とはなっていないが、iPad のスイッチ操作場面以外でも、「教室にかかっている音楽を替えてほしい」「終わり」などの意味で左手を動かして意思を伝えられたことがあった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

生徒の成長が見られたのは、「動画」への生徒の意欲の高さによるところが大きい。本人の現在の能力とそこから必要な能力の目標を設定して課題を選択するが、課題に取り組む本人にとっての意味や動機が大切であると感じた。

肢体不自由の生徒等が iPad を使用するにはスイッチが必要になるケースが多い。その場合、スイッチ対応のアプリを使おうとすると選択の幅がかなり狭くなってしまう。今回は iPad タッチャーを2つ使用したが、動作も安定していて、多様なアプリケーションを使うことができたので有効な方法であると感じた。



・エビデンス（具体的数値など）

昨年度からの引継ぎでは、2スイッチを操作するのは生徒にとって難しい課題と捉えられていたが、課題によっては十分にできる活動となった。また夏休み中に東部療育センターの OT の指導で2つのスイッチでの動画選択の課題に取り組んでいたが、日によって左右どちらかの手が動きにくく、左右の手の役割が決まっていなかった。指導後、好きな課題では2スイッチの操作が確実にになり、左右の手の役割が明確になり、意思表示の手段として応用できるまでになった。